

各位

2026年7月2日
株式会社G S I クレオス
経営企画部 企画広報課

川崎市令和8年度「環境技術産学公民連携公募型共同研究事業」に採択 光透過型有機薄膜太陽電池（ST-OPV）の市有施設での実証

株式会社G S I クレオス（東京都港区／代表取締役 社長執行役員 吉永直明、以下G S I クレオス）は、川崎市の令和8年度「環境技術産学公民連携公募型共同研究事業委託」に採択され、このたび光透過型有機薄膜太陽電池（ST-OPV）の共同研究を川崎市とともに開始します。本共同研究では、川崎市が保有する施設での実証実験を計画し、都市環境での発電性能・耐久性・施工性を総合的に評価し、施工標準の確立と社会実装の加速を目指します。

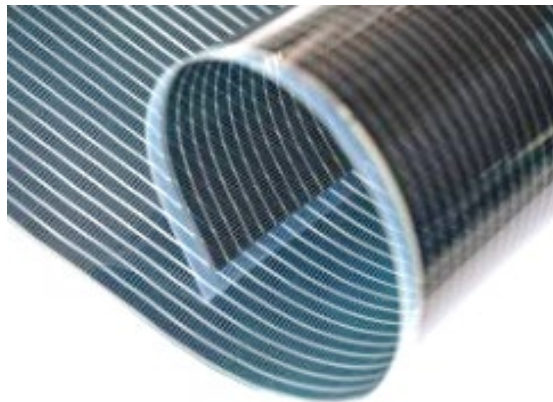


Fig 1.丸められる ST-OPV



Fig 2.光透過性のある ST-OPV

【共同研究の概要（計画）】

- ・実証場所：川崎市保有施設の一部（対象施設は関係者と調整中）
 - ・期間：令和8年度内に設置・評価を段階的に実施 / 令和9年度以降に発電など主要指標を評価
 - ・成果取りまとめは各年度に実施
 - ・主な評価項目
 1. 直射・散乱・低照度・部分影での発電特性の評価
 2. 温湿度・紫外線・風雨による屋外耐久性への影響の評価
 3. ST-OPVの施工性の評価
- ※上記に加え、都市景観への影響度合い（視認性、意匠）も評価していきます。

【本発表のポイント】

- ・公募採択により、公共フィールドでの ST-OPV 実証とデータ取得を加速します。
- ・市有施設での実証を通じて、屋外に設置する ST-OPV の発電、低照度・部分陰環境での実用性を検証します。
- ・屋外での耐久性が確認できた場合、これまで導入が進みにくかった場所への設置拡大を図ります。これにより脱炭素と景観の両立に貢献します。
- ・川崎市を拠点に、ST-OPV の事業化とフィルム型太陽電池の標準的な設置方法の確立を目指します。
- ・公共フィールドでの実証という信用補完を梃子に、民間案件への展開を加速します。中長期の収益機会（製品販売/EPC/保守/ライセンス）の創出を図ります。

ー本実証の目的：川崎市内環境への還元

- ・本実証実験により屋外耐久性が十分と判断されれば、これまで導入が進みにくかった軽量・透過・曲面追従が求められる場所への設置機会が拡大し、市内の再エネ導入量の底上げに寄与します。
- ・透過・薄型・軽量の ST-OPV は、意匠性・日射環境・重量制約のある場所への設置も可能であり、分散型の再エネ導入拡大が期待できます。
- ・これらの取り組みが、脱炭素・レジリエンス・景観配慮を同時に満たす都市型ソリューションとして、川崎市の行政課題解決に資することを目指します。

ー川崎発の ST-OPV 事業化と独自技術の確立

- ・G S I クレオスは ST-OPV の社会実装に向けた製品・施工・保守の一体設計に取り組んでいます。今回の共同研究で良好な結果が得られ事業化に至れば、「川崎発の ST-OPV 事業」として競争優位と認知の獲得が期待できます。
- ・実証で得られる知見をベースに、将来的には標準的な施工方法を策定・公開する方針です。これにより、川崎発のフィルム型太陽電池の標準施工となることを目指し、拡販コストの低減と案件立上げの迅速化を図ります。

ー将来期待される当事業へのインパクト

- ・川崎市内での横展開と、同種インフラを持つ他自治体・民間施設への外販により、当社 ST-OPV 事業を広域に拡大することができます。
- ・製品売上に加えて、EPC・保守・モニタリング・ライセンス等の付随収益の積み上げにより、高い収益構造の構築を目指します。
- ・公共フィールドでの実証データは、顧客の意思決定を加速し、商談の確度を高める信用補完として機能します。
- ・標準施工の整備により、案件ごとの個別設計負担を削減し、スケール時の収益性を改善します。
- ・ESG と収益性の両立を前提に、中長期の企業価値向上に資する新たな成長ドライバーとして ST-OPV 事業を位置づけます。

ー今後の見通しとリスクに関する注意事項

- ・本リリースには将来の見通しに関する記述が含まれます。実際の結果は、技術検証、規制・認証、サプライチェーン、需要動向、協議・調整の結果等により大きく異なる可能性があります。
- ・実証の場所・時期・仕様は、関係者との協議により変更となる場合があります。

【ST-OPV の特長】

1. ST-OPV は、光透過型有機薄膜太陽電池(Semi-Transparent Organic Photovoltaic)の略称です。
2. 安全・安心な材料で構成されており、製造方法も含め、極めて環境負荷の低い次世代太陽電池です。
3. 超軽量、曲げられるだけでなく、丸めることができます。(Fig 1)
4. フィルム状で超軽量のため、施工・設置に高い自由度があります。
5. 光透過性、高い意匠性を有するため、設置場所の景観を阻害しません。(Fig 2)

【G S I クレオスとは】

G S I クレオスは、国内に 9、海外に 27 の事業拠点をもち、“繊維”と“工業製品”の両事業をグローバルに展開する事業創造型商社です。「次代の生活品質を高める 事業の創造者として 人びとの幸せを実現する」というパーパス（存在意義）のもと、ESG 経営を推進し、「環境」「生活・健康」「エネルギー」の分野で新たな価値を創出しながら、社会課題の解決と人びとの幸せの実現を目指しています。

G S I クレオスは、2021 年に高分子半導体を独自手法で合成するカナダのスタートアップに出資し、有機エレクトロニクス分野に本格参入しました。2026 年 4 月には ST-OPV の事業子会社、ウロボロス・パワー・ハーベスティング社(OPH)を設立し、次世代太陽電池 ST-OPV の事業化を進めています。

OPH 社が G S I クレオスを通じて供給する ST-OPV を通じて、川崎市から持続可能で強靱な社会の実現を目指します。

G S I クレオス HP : <https://www.gsi.co.jp/ja/index.html>

【ウロボロス・パワー・ハーベスティングとは】

G S I クレオスの子会社として 2026 年 4 月に設立された、ST-OPV の事業会社です。

OPV の提供および施工、評価などの管理を行うとともに、世界最大の OPV 製造グループである PHD 社とともに、2029 年度の ST-OPV 国内製造を目指しています。

ウロボロス・パワー・ハーベスティング HP : <https://www.oph-jp.com/ja/index.html>

<本件に関するお問い合わせ>

株式会社 G S I クレオス 経営企画部 企画広報課 Tel : 03-5418-2122